



ここは氷の世界？！

園長 渡邊 舞

先日、南極の氷をいただく機会があり、子どもたちに早速「ペンギンのいる南極の氷」と南極の画像を見せながらその氷を見せました。すると、「わあ」と感嘆の声が上がり、目をキラキラさせながら感動する子どもたちの姿がありました。その氷を水に入れ、溶けていく音に耳を澄ませて聴いたり、容器の下から氷を見たりしているうちに「氷の世界みたい」「海の中から氷を見ているみたい」と感じたことを話し始めました。その声を聴き、いつも遊びに使っている懐中電灯で担任がその氷を照らしてみると子どもたちは、突然1列になって「ペンギンだよ！」と保育室内をペンギンのように歩き始めました。たちまち、そこは、氷の広がる南極に（いる気分）。一瞬で保育室がペンギンの世界になったのでした。その後、担任が青のセロファンを通して、氷に光をあて、氷の世界に合う音楽を流すなど、ほんの少し、“魔法”をかけると「氷がいっぱいのところだから寒〜い！」とお話するお友達がいました。どんどん氷の世界にいる気分になるのですから不思議です。しばらくペンギンの世界を子どもたちと一緒に旅をした時間でした。この日以来、好奇心いっぱいの子どもたちは、南極や北極にまつわる科学絵本を夢中で見えています。



子どもたちは、まだ見ぬ世界や体験したことのない世界がたくさんあり、日々感動の連続です。ともすると通り過ぎてしまいそうなことや目にするもの、聴くもの、触るものなど様々なものやことに心動かし、たくさんの感動体験をしています。そうした感動体験によって、子どもたちの感性がどんどん磨かれていきます。また、心動かされたことをきっかけに「～かもしれない」「～したらどうなるかな」と思いを巡らせたり、「〇〇みたい」「ここは(これは)〇〇のこと」と見立てたりする中で、想像力がどんどん豊かになっていきます。物事の関係性やしぐみにも気付くようになり、さらに「もっと知りたい」という意欲が高まり、探究心が育っていきます。こうした姿を私たちは日々、大切に受け止め、支えています。



さて、氷の世界の続きは？寒波到来で園庭にはとても厚い氷ができ、南極の氷から関心は西幼稚園の氷へ。園庭の片隅にある足洗い場には氷が張っていてそれを見つけた子どもたちはすぐに駆け寄りました。「わあすごい！」とうれしそうに言った直後、勢いよく氷の上へまっしぐら。南極のペンギンは氷の上を歩いているので当然自分たちも氷の上に上がれると思ったのでしょう。ミシミシと音をたて、ヒビが入り私たちが「あっ！」と言ったと同時に氷は割れ、靴下までびしょりになったお友達がいました。ここで、氷はすぐに割れるものなんだと学んだのでした。

次の日も「今日はどうなっているかな？」と同じ場所を目指す子どもたち。でも前日と違ってそっと片足ずつ氷の状態を確認してから氷の上に上がっていました。ペンギンのいる氷の世界に思いを馳せつつ、実体験を通し、氷は割れる、持ってみると重たい、ザラザラ、ツルツルするなど、氷の性質にふれた子どもたち。子どもたちのこうした感動体験は、教科書で学ぶ知識以上に、好奇心と想像力、そして探究心が育まれ、新たな学びの扉を開くと考えます。将来、南極のペンギンたちを地球温暖化から救うカギにつながるかもしれない?!そんなことを思いながら、今日も嬉々として氷と向き合う子どもたちに寄り添い、一緒に学びの扉を開いています。

